

# 民族衣装を通じて その国の実情を知る



## きらめき市民大学 17期 国際・文化学部 B班

○小出 雅晴 佐藤 律子 ◎水村 隆司 森本ハル子 屋代 一夫  
森田 智子 ○矢島 國次 高橋 芳信 浅黄 勝  
(◎リーダー、○サブリーダー)

## 目 次

表紙、目次

- I. テーマ選定の理由
- II. 「JICA 筑波」見学
- III. 世界の民族衣装の試着
- IV. 民族衣装について
- V. 今回調査対象の国々 Map
- VI. 各国の基本情報調査（風土、気候、民族衣装、歴史、産業、貿易等）
- VII. 東松山市在住の外国人との懇談会
- VIII. 外国人労働者の雇用について
- IX. 活動を振り返って
- X. まとめ

## I. テーマ選定の理由

令和元年には、台風15号、19号により日本各地に大きな被害をもたらしました。世界的には、戦争勃発の危機もありました。又地球温暖化が進み、氷山が解けることにより海面が上昇して陸地が水没する現象も起きました。地球そのものが消滅するのではないかとささやかれています。世界中が早くこの現象に「気づき」行動することが大切です。

「私たちの時代に悪い環境を残さないで下さい」と、たった1人で訴えた少女の発言がマスコミで大きく取り上げられ、世界中で注目されました。

そんな中、今年には東京オリンピック、パラリンピックが開催されます。世界中から多くの方々が来日されます。日本人として丁重に「おもてなし」したいものです。開会式では、選手団の少ない国では「民族衣装」での入場行進が見られることが予想されます。これらの発展途上国の「民族衣装」を知る事はもとより、その国の「実情」を深く知ること重点をおきました。発展途上国と日本の関係は、貿易及び労働力の面からも重要です。

日本の労働力不足は、これらの国々の方々により助けられているのが実情です。私たち「B班」は、在日外国人の若い方々（雇用される側）との「意見交換」や、雇用する側の企業の方とも「懇談会」を実施して、厳しい労働雇用環境の実態を知ることになりました。

「民族衣装」とその国の実情にあわせて、他の発展途上国との関係まで広げてこの『テーマ』を選定しました。

民族衣装のパフォーマンスを実施する事も、その一つと考えております。

課題研究対象国 東松山市に在住する外国人 (H28.3.31)、(市の調査・単位人)

フィリピン 238、ペルー 171、インドネシア 33、ボリビア 4、ブータン 1  
アルジェリア 0、ウズベキスタン 0、ガーナ 0

参考 在住者の多い国 10人以上

ブラジル 462、中国 260、フィリピン 238、ペルー 171、韓国 101、ベトナム 72、ネパール 35、タイ 33、インドネシア 33、パラグアイ 20、北朝鮮 17、インド 15、台湾 15、マレーシア 14、スリランカ 12、アメリカ 11、パキスタン 10

## II. 「JICA 筑波」見学

まずは、予備知識を吸収するために、「JICA 筑波」を見学しました。

### A) JICA 筑波の概要

#### ① JICA とは

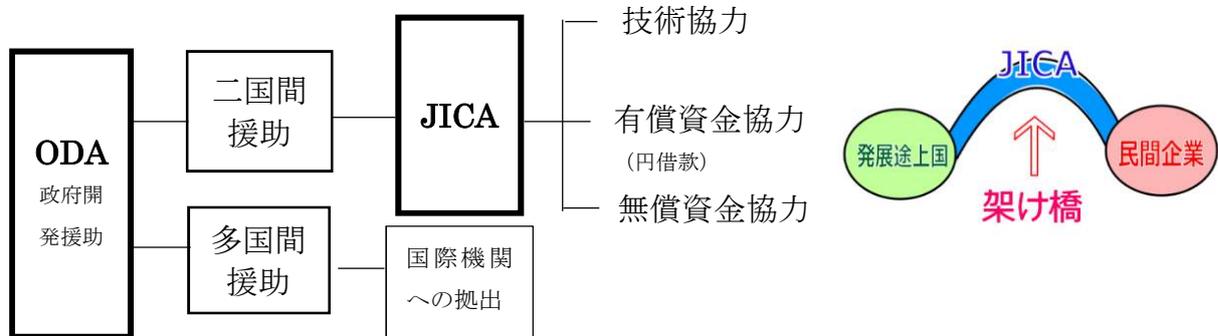
独立行政法人国際協力機構(JICA/ジャイカ)は、日本の政府開発援助(ODA)を一元的に行う実施機関として、発展途上国への国際協力をおこなっています。

\*JICA/ジャイカは、Japan International Cooperation Agencyの略語です。

#### ② ODA と JICA について

日本は、1954年にコロンボ・プランに加盟して以来、「国際社会の平和と安定及び繁栄の確保により一層積極的に貢献すること」を目的に、政府開発援助(ODA:Official Development Assistance)として、発展途上国に資金的・技術的な協力を実施してきました。JICAはODAのうち、国際機関への資金

の拠出を除く、二国間援助の 3 つの手法、「技術協力」「有償資金協力」「無償資金協力」を一元的に担っています。世界最大規模の二国間援助機関である JICA は、約 90 カ所にのぼる海外拠点を窓口として、世界約 150 の国・地域で事業を展開しています。



### ③ JICA の国内拠点の役割

JICA は、東京の本部に加え、各地域に国内拠点を設置しています。国内拠点は、JICA の国際協力の重要な現場です。発展途上国から来日する研修員に我が国の経験・技術を学ぶ機会の提供や、ボランティアの訓練実施を主な目的としていますが、地域の人々との交流を深める場にもなっています。また、JICA 事業や国際協力に関する情報提供、グローバル人材の育成支援、自治体や NGO（政府とは関係ない民間組織）、大学、民間企業などと連携した国際協力事業を幅広く推進しています。国内拠点は、開発途上国と日本の各地域を結ぶ架け橋として、地域の特色を活かした国際協力を推進するとともに、国際協力を通じて地域の発展にも貢献する活動を進めていきます。

○ 国内機関・・・関東甲信越（ ）内は各国内機関の所轄地区です

**JICA 筑波（茨城県・栃木県）、JICA 東京（群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・新潟県）、JICA 横浜（神奈川県・山梨県）、JICA 駒ヶ根（長野県）**

\*国内機関は北海道から沖縄まで 15 の機関があります。

### ④ JICA 筑波の業務等

JICA 筑波の所管地区・・・茨城県・栃木県

JICA 筑波の業務

- 研修員受入事業・・・ 海外から日本の技術や知見を学ぶ研修員を受入れています。
- JICA 海外協力隊事業・・・青年海外協力隊等への参加をお手伝いします。
- 草の根技術協力事業・・・ NGO、大学、自治体等団体の国際協力参加を支援します。
- 開発教育支援事業・・・ 世界のことを知り、関心を持っていただけるよう機会を提供します。
- 中小企業・SDGs ビジネス支援事業（SDGs:持続可能な開発目標）・・・ 企業と途上国の仲介役として企業の海外展開をお手伝いします。

### B) JICA 筑波施設見学（民族衣装コーナー等）



JICA 正面玄関前



民族衣装コーナー



課題別研修 農業



課題別研修 技術①



JICA 説明員と



課題別研修 技術②

JICA 筑波では、開発途上国から年間約 800 人の行政官、技術者、NGO 関係者等を受入れ、全国有数の農業算出額を誇る茨城県の農業分野の人材やノウハウを活かした農業研修や筑波研究学園都市の研究機関、大学の協力を頂き最先端の科学技術を提供する研修、JICA 筑波のハタケ、実習・実験施設を用いた実践的な研修等、80 コース以上の研修を行っています。

また開発途上国の中核を担う人材を大学の修士・博士課程で学ぶ留学生として年間約 70 人受け入れています。日本の経験や知見を学んだ研修員が、将来、母国の経済発展の原動力として活躍し、また親日家として日本との架け橋となることが期待されます。

### III. 世界の民俗衣装の試着

民族衣装コーナー（写真パネルや、研修員から贈呈された民族衣装、民芸品、民族楽器などを展示しています。民族衣装の試着や楽器を手に取ることもできます。）

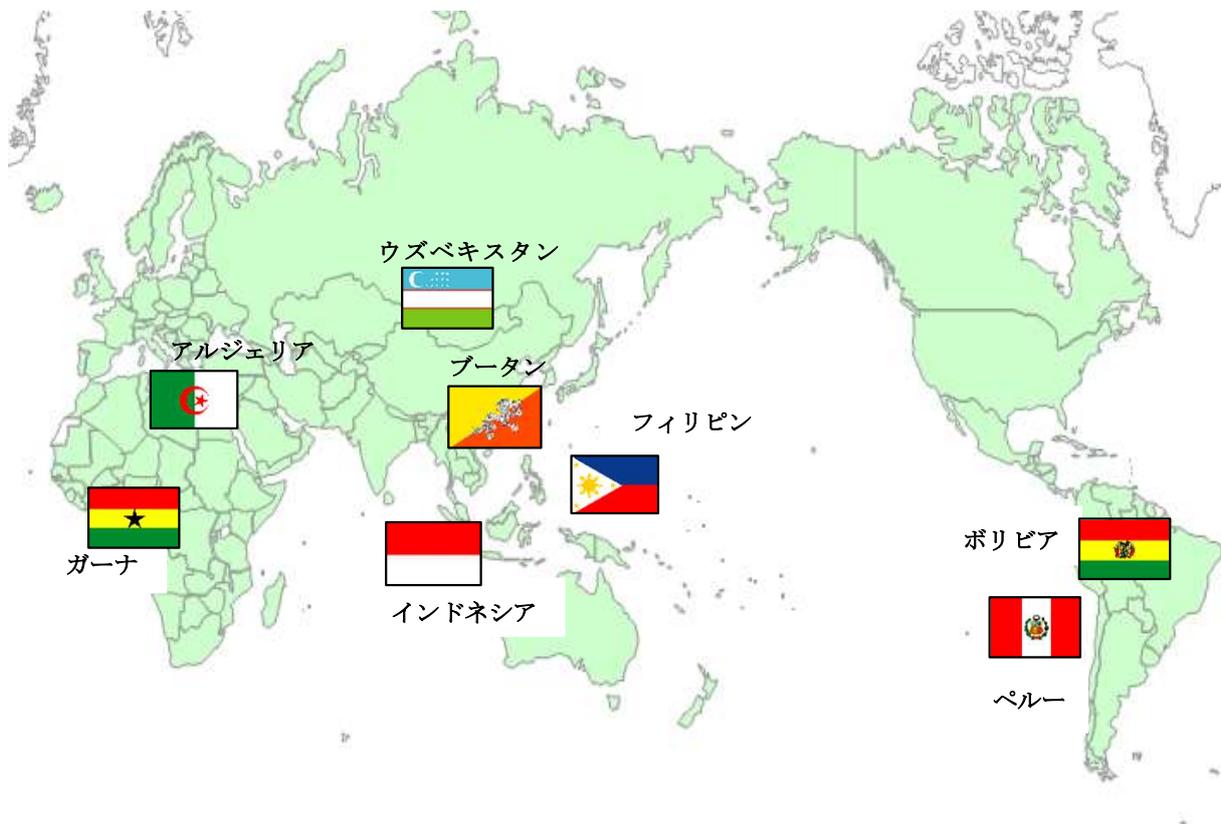


### IV. 民族衣装について

民族衣装は、何世紀もの変遷をへて現在の姿に到達したもので、そこには、その民族が暮らしてきた土地の気候風土、歴史、民族の美意識や精神、宗教観などが複雑に織り込まれています。気候風土に対応して自然発生した頃の衣服は、単純ではあるが必要な条件や機能を備えていました。やがて文化が発達し、生活にゆとりが出始めると、しだいに装飾性が強まり、社会的地位や貧富の差、性別なども表すようになりました。また、異民族の侵略や平和的な異文化の伝播によって、衣装が変容、混合、消滅したり、反対に少数の民族が孤立

して外部との接触を断つと、時代の遺物のような衣装が残存したりします。民族衣装はまた、社会制度や政治形態にも大きな影響を受けます。民族の団結を強めたり、思想や宗教を徹底させるために、人為的な衣装が設定された例は多いです。民族衣装は民族の顔、民族とともに生きているのであります。

## V. 今回調査対象の国々 Map



\*上記8つの国を選んだ理由：発展途上国で、バランスを考慮し選定した

## VI. 各国の基本情報調査（風土、気候、民族衣装、歴史、産業、貿易等）



### ボリビア（ボリビア多民族国）

南米大陸のほぼ中央部に位置するボリビア（ボリビア多民族国）は、その国土に4,000m以上の山々が連なるアンデス高地をはじめ、熱帯雨林やサバンナが広がる低地を含むなど、実に多彩な自然環境に恵まれています。また、アンデス高地では、先スペイン期より高度な文明が栄え、さらにスペインによる植民地時代には、ポトシ銀山より掘り出された膨大な量の銀が、当時のヨーロッパ経済に大きな影響を与えました。そして現在でも、色彩豊かな民族衣装やフォルクローレ音楽、古くより続く民間信仰など、特色ある民俗文化が多くの人々の関心を引き付けています。

ボリビアの衣装で独特なものとして、先住民の血を引く女性やインディオの民族衣装を着た女性のことを「チョリータ」と呼びます。このチョリータたちは、髪を三つ編みに結い山高帽をかぶり、ポリェラという、ひだが多く、裾が広がったスカートをはいています。スカート丈の長さは寒冷な気候の高地では長く、温暖な気候の低地で

は短いそうです。また、標高が高く寒いため、上着として羊毛やアルパカの毛などから作られた色とりどりのショールを羽織っています。この服装は、植民地時代のスペイン人たちが身に着けていた衣装のスタイルを取り入れたものと言われています。ただし、彼女たちがかぶっている山高帽に関しては、20世紀初頭にボリビアに来たイギリス人の鉄道敷設技師がかぶっていた帽子をまねたものと言われています。



ボリビアの首都はラパス（スクレ）で、面積は109万8,580km<sup>2</sup>（日本の約3倍）で、地理的位置は、ペルー、チリ、アルゼンチン、パラグアイ、ブラジルの5か国に囲まれ、国土内には海への出入り口を持たない内陸国です。人口は1,135万人、主要言語は、スペイン語、ケチュ

ア語、アイマラ語です。またオリエンテではグアラニなど。宗教は、現在は信仰の自由が認められているが、大多数の住民はスペイン人がもたらしたキリスト教（特にカトリック）を信仰しています。

日本とボリビアの国際関係は、1914年4月13日に通商条約が締結され、外交関係が樹立されました。1942年、ボリビアが第2次世界大戦に参戦した際、外交関係が途絶しましたが、戦争終了後、1952年12月20日に外交関係が再開しました。現在両国は、良好な友好協力関係にあり、2009年に日本人移住110周年を迎えました。経済的関係としては、日本から直接投資が1,770万米ドル、対日貿易額は輸出（亜鉛、鉛、ごま、キヌア、チアシードなど）が186.9億円、輸入（自動車・自動車部品、エンジン、機械など）が303.7億円となっています。文化的関係では、日本文化紹介事業がラパス市及びサンタクルス市で行われる他、毎年2名程度のボリビア研究留学生在が来日しています。



## ペルー共和国

面積約129万km<sup>2</sup>（日本の約3倍）（東松山市に171人のペルー人）

人口⇒3,182万人⇒日系人が10万人。首都⇒リマ、民族は先住民45%、混血37%、欧州系15%、その他3%、宗教⇒国民の大多数はカトリック教徒。言語⇒スペイン語、他にケチュア語、アイマラ語等。

空中都市マチュピチュ、インカ時代のなごりをとどめるクスコ、そして謎の地上絵で知られるナスカなど、数々の遺跡が世界中の人々を惹きつけるアンデスの国です。

ペルーの気候

ペルーは南半球にあり、季節は日本とは逆。気候は地域によって異なり、首都リマはほとんど雨が降らず、クスコなどの山岳地域は日中と朝夕の気温差が激しいのが特徴です。雨期11～4月、首都リマでは晴天の日が続き、長袖シャツで過ごせます。標高の高い地域では夜間は冷え込みます。乾期、太平洋側の海岸に開けたリマでは、5～10月、ガルúaという霧が発生しやすく、曇りの日が多くなります。

ペルー人女性の民族衣装・伝統衣装として、ポリェラが挙げられます。このポリェラは裾の広がった、ひだスカートのようなもので、地方によってデザインに違いが見られます。例えばペルーの温暖地ではスカートの丈は短く、寒冷地では長いというように気候によってデザインが異なるようです。また、日本の伝統衣装である着物の柄と同じように、ペルーの民族衣装であるポリェラもシンプルなものからカラフルなものまで、さまざまなパターンがあります。ちなみに、この民族衣装であるポリェラと

いうスカートは、ペルーだけではなく、ボリビアやパナマなど、他南米諸国の女性にも着用されているのが特徴です。

### 日本とペルーの外交

ペルーはラテンアメリカ諸国で 14 番目に日本と国交を結びました。明治維新から 5 年後の 1873 年（明治 6 年）8 月 21 日に友好通商航海条約を締結しました。その条約のきっかけは、司法紛争にもなった、横浜港で有名なペルー船（マリア・ルース号）事件でした。日本における最初の国際法に関する事件であり、世界的な法学進展を意味するものでありました。ペルーは日本が最初に海外投資した国の一つでもあり、セ



ロ・デ・パスコ山近くの銀鉱脈への投資をしています。マヌエル・大統領はラテンアメリカから日本を公式訪問した最初の国家元首で、現大統領はマルティン・ビス

カラです。日本からは、1967 年の天皇皇后両陛下の御名代（当時皇太子両殿下）の訪問や 1999 年の日本人ペルー移住 100 周年祝賀のために、紀宮殿下が訪問されました。

ペルーと日本は太平洋で結ばれており、APEC2008 年にはペルー議長や FEALAC のような多国間相互協力ということが重要視されています。太平洋は地球上最大かつ豊かな海洋です。両国に未来の世代に恩恵をもたらす環太平洋と繁栄に向けて貢献し協力しあえることが永続的願いです。



## ガーナ共和国

ガーナ共和国は、アフリカ大陸の西部で、赤道から北に位置し、国土の上をグリニッジ標準線が通っています。気候は熱帯の国です。南部はアマゾンに似た熱帯気候ですが、首都のアクラは乾燥し赤道気候です。第二の首都クマンは湿気の多い半赤道気候に属しています。気温は年間を通して 21 度から 32 度位で、雨季と乾季があります。雨季は 3 月から 10 月までで、乾季は 11 月から 2 月まで、一日中雨が降り続くことはほとんどありません。サバンナが広がる北に行くほど降水量は少なくなり乾燥の度合いが強くなります。少ない地域でも 1,000 ミリ前後の降水量はあります。

面積	23,857 km <sup>2</sup> （日本の約 3 分の 2）	人口	2,883 万人
首都	アクラ 第 2 の都市クマン	民族	アカン、ガ、エベ、タゴンバ
言語	公用語「英語」 各民族語	通貨	ガーナセディ
宗教	国民の約 70%がキリスト教徒、イスラム教約 17%、その他伝統的宗教等		
国際日	3 月 6 日（独立記念日）		
歴史	ガーナ共和国は 1957 年独立国家となった際に名づけられた。 1992 年初の民主主義による選挙が行われ、大統領が選出され、 ガーナ民主主義を確立した。		

### 野口英世

ガーナと日本は長年にわたり、交友関係を築いています。  
世界的に有名な細菌学者「野口英世博士」（1876 年～1928 年）です。



ガーナで黄熱病の研究中に自らも感染し、その生涯の幕を閉じました。

## 民族衣装



使用されている布のケンテは、ガーナの冠婚葬祭で使われていて、すべて手織りです。ケンテ織りは古来から男性の仕事で、今でもそのスタイルは変わりません。複雑なデザインは西アフリカの織物の中でもっとも有名です。それぞれの模様は意味を持ち、優れた織物としてのケンテの特徴となっています。何しろ重いです。

ケンテは昔からガーナの中心部、アシャンディ王国で作られ始めたものであります。もともとは、王族用に作られていて、由緒ある神聖な織物です。中でもこのアシャンディ王国の勢力は強かったようで、ケンテは今でもアカン民族の誇りです。

特にガーナの国旗で使われています。赤、ゴールド、緑はよく使われています。自然の緑、鉱物のゴールドは富の象徴といったところでしょうか？

## ガーナの産物

中世から金の輸出が盛んで、現在は、アフリカ第2の産出国で、ダイヤモンド、ボーキサイト、マンガンなどの資源に恵まれています。又、木材も主要な輸出品目の一つになっています。ガーナの「プレミアムカカオ」は優れた品質で、世界中の人々に愛されています。日本国内に輸入されているカカオは80%がガーナ産です。

## ガーナの食文化

プランテーション（料理用バナナ）とキャッサバの粉などを材料として日本の餅のようについたものに好みのスープをかけて食べる「フフ」と呼ばれる代表的ガーナ料理があります。



各種のガーナ料理が多くのレストランで楽しめます。アクラなど都市部には、各国のレストランがあります。

## スポーツ

○アフリカの中で、サッカーの強い国で知られています。男の子は、サッカー。女の子はバレーボールが大好きです。

○オリンピックでの実績と今後の予定

- ・1960年 ローマ大会 銀1
- ・1964年 東京大会 銅1
- ・1972年 ミュンヘン大会 銅1
- ・1992年 バルセロナ大会 銅1
- ・2016年 リオデジャネイロ大会参加 ガーナ代表 14名（日本は333名）
- ・2020年 柔道に参加する（参加人員は未定です）

## 今日のガーナ

今日のガーナは、多政党による安定した政権によって治められた民主的な共和国です。金などの鉱産物、カカオ、木材を基盤として、経済的にも、ますます成長を続けています。近年のガーナの経済、インフラの成長には、目を見張るものがあり、近い将来新しい工業国として注目を集めるでしょう。流動通貨制を採用して自由経済の国で、外貨の交換やクレジットカードが利用できる場所も多くあります。海外投資家に

よる株取引も積極的に行われています。

○アクセスは関西空港、中部空港からドバイ経由の便(エミレーツ航空)もあります。  
(飛行機で19時間から20時間かかります)

○日本からの開発援助

ガーナに対する我が国の経済協力は、1962年に締結された技術協定を起点としています。

野口記念医学研究所プロジェクトをはじめとした、多くの技術協力や無償・有償資金協力を実施することで、経済社会インフラの整備等によりガーナの成長に大きく貢献してきました。

・重点分野

- (1) 農業(稲作)の生産性を向上させる技術等に関し日本はガーナを支援しています。
- (2) 道路・港湾をはじめとする動輪交通や電力などのインフラ整備を可能な限り我が国の技術力を活かして支援しています。
- (3) ガーナの喫緊の課題である妊産婦及び乳幼児の死亡率低下に向けた支援を中心に保健分野への支援をしています。又、理数科教育を中心として、包括的な学習環境の改善を支援をしています。
- (4) 行財政運営能力の強化及び安定的な経済運営と行財政規律の確立を支援しています。又、効率的な、行政サービスの実現を支援しています。



## アルジェリア民主人民共和国

アルジェリアは、北アフリカの西方に位置する、共和制国家。東にチュニジア、リビア、南東にニジェールと、南西にマリ、モーリタニアと、西にモロッコ、サハラ・アラブ民主共和国と国境を接し、北は地中海に面し、地中海を隔てて北にフランスが存在します。 概略内容

面積	238万km <sup>2</sup> (内、砂漠地帯約200万km <sup>2</sup> )	宗教	イスラム教(スンニ派)
人口	4,220万人(2018年1月)	政体	共和制
首都	アルジェ	GDP	1,703億ドル
民族	アラブ人(80%) ベルベル人(19%)	人口密度	16.2人/km <sup>2</sup>
言語	アラビア、ベルベル、フランス語	主要産業	石油・天然ガス関連産業

1962/7にフランスより独立しました。気候は、北部の地中海沿岸部は温帯で典型的な地中海気候です。南カリフォルニアとほぼ同じ緯度であり、気候も類似した部分が多いです。平均気温は夏は20度から25度、冬は10度から12度で、アトラス高原から南に行くにつれて冬と夏、昼夜の温度差が激しくなり、降水量が少なくなります。また、夏には暑く乾燥した風が吹き、その風は海岸部までに及びます。地中海沿岸部以外の国土の大部分は、砂漠気候となっています。山岳地帯では、冬になると雪が降り、吹雪になることもあります。

伝統的な民族衣装の一つとして「ガンドゥーラ」があります。中近東や北アフリカの男女が着る袖なしか、長袖つきの、木綿やウールのゆるやかな衣服のこと。なんと、ガンドゥーラの生地「トープ」のほとんどが日本製です。

アルジェリアの産業 地下資源、特に化石燃料の採掘は非常に重要な産業です。これは化石燃料(炭化水素)関連の産業が国家予算の52%、GDPの25%、貿易収益の95%を占めていることからもうかがえます。特に天然ガスは世界第5位の埋蔵量を誇

っており、世界第2位の輸出国でもあります。日本との関係は、在留日本人数 135名（2018年）、在日アルジェリア人数 225人（2017年）

日本との関係においては、独立戦争を全学連や宇都宮徳馬、北村徳太郎らが支援した



ことをきっかけに、独立後も友好的な関係が築かれました。アルジェリアは日本企業に多くの開発事業を発注し、1978年には日本人在留者（在アルジェリア日本人）が3,234人に達するなど、日本にとって最も関わりの深いアラブ

の国となりましたが、1999年代の内戦勃発以降、日本人在留者の数は急速に減少しました。

アルジェリアの世界遺産は、文化遺産6件、複合遺産1件あります。

文化遺産：ムサブの谷、アルジェのカスバ、ベニ・ハンマードの城塞、ジェミラ、ティムガッド、テイパサ、複合遺産：タッシリ・ナジェール



## インドネシア共和国

インドネシアの「民族衣装」は、女性の場合「クバヤ」と呼ばれるレース地の涼しげな上着と「サルン」と呼ばれる、まきスカートからなっています。「ベール」をかぶっている女性も多く、肌の露出を控える衣装となっています。

一方男性の衣装は「サファリ」です。男性用の上着で正装として着用されている「民族衣装」です。インドネシアは「ニューギニア」「バリ」「ジャワ」「スマトラ」島等多くの島々から成りたっている国です。

それぞれの島々によって気候も多少変わりますので、デザインの違いもあります。

次にインドネシアの実情です。

### 概 略

人 口	2億 6,635万人 (2018年)
面 積	191万km <sup>2</sup> 日本の約5倍 約14,000の島々
首 都	ジャカルタ
言 語	インドネシア語
宗 教	イスラム教 87%
通 貨	ルピア (1,000ルピアが約8円)
産 業	製造業 20% 農林水産 13% 商業 13% 産業 44%
GDP	1兆 142億ドル (日本 5兆 1,000億ドル)
貿 易	(輸出) 中国、米国、日本 (輸入) 中国、日本、タイ
国際援助	3億 99百万ドル (2016年)
在留邦人	19,312人 (2016年)
オリンピック	(リオ) 25人選手参加 100mバタフライで金メダル
投資 (日本)	54億ドル 日系企業約 1,800社進出



日本とインドネシアの関係は、大戦後に経済的、政治的につながり、特に緊密なものになりました。1958年平和条約を締結し、更に強い絆で結ばれる事になりました。日本はインドネシアの上位輸出相手国であり、自動車のシェアは最高です。JICA

を通じての政府開発援助の供与国でもあります。又日本にとって、インドネシアは「液化天然ガス」などの供給国でもあります。

インドネシアというと、まず第一に思い浮かべるのは、「スカルノ大統領」でしょう。1945年8月大戦間もなくスカルノはインドネシアの独立を宣言しました。しかし、これを認めない「オランダ」は独立したばかりのインドネシアとの間に「独立戦争」が勃発しました。残留日本兵の協力もあり、独立をはたし、以後日本との良好な関係を保つこととなりました。

スカルノ大統領は、日本人妻「デビスカルノ」さんを迎え入れ、西側諸国との関係が悪化する中でも、さらに強い関係をもつことができました。

3年後の1965年に起きた軍事クーデターにより「スカルノ」は失脚しました。

その後「第3婦人デビ」さんも大統領のもとから離れ、フランスに亡命しました。「スカルノ」の死後、第3婦人として正式に遺産分与が行われました。1980年再びインドネシアに戻り事業を興し成功しました。その後ニューヨークに移住したのをキッカケに第一線から退き、動乱に巻き込まれることなく日本に帰国をはたしました。インドネシア語、仏語、英語に堪能であり現在はタレントとして活躍しています。主にワイドショー、バラエティ番組に多く出演しています。慈善事業にも積極的であり、赤十字、はじめ、動物愛護団体、福祉、障害者団体などに多額の寄付をおこなっています。日本政府はじめ民間企業も大変お世話になっています。彼女の人生は「インドネシア」と「日本」の架け橋として尽力することが第一と考えています。



## ブータン王国

### 1. ブータン国の概要 **ブータンは最も幸福度が高い国と言われていました。**

1970年代に国民総幸福量GNH、ブータンで初めて提唱された尺度。「経済的な豊かさではなく、精神的な豊かさを重んじる」ということ。当時、そして2005年時でも「国民の幸福度が世界一」「国民の97%が幸福と思っている」との報道でした。老子の言う「知足」(足るを知る者は富む)という意識が国民に浸透していました。しかし、**現在2019年のブータンはもう普通の国**。国連の2019年版では、1位フィンランド、58位日本、**95位ブータン**でした。鎖国のような国から、今では民主化も進み、急速にテクノロジーが普及しています。もはや1970年以前の「鎖国」には戻れませんし、急激な変化がこの国を襲っています。「物価の高騰」「若者の失業」「都会と田舎の経済格差」「犯罪の増加」など問題も山積しているようです。一度知ってしまうと、人間の欲望は留まることを知りません。

#### ・現時のブータンの基本情報

No	項目	参考情報
1	人口 75.6万人	高知県とほぼ同じ
2	国土面積 38,394 km <sup>2</sup>	九州とほぼ同じ
3	首都 ティンプー	10万人居住 (13.2%) 約8人に一人
4	標高 2,320m	中国とインドに挟まれ、気候は四季がある
5	ゾンカ語、英語教育	若者たちは、英語を流暢に話す。
6	日本との貿易	日本への輸出 107百万円(2016年) 日本からの輸入 1,029百万円(2016年)

7	在留邦人数、在日人数	107人 (2016年)	180人 (2016年)
---	------------	--------------	--------------

## 2. 民族衣装

民族衣装、それはその国の文化・生活そのものであり、そこからその民族を知ることができます。

実際にメンバーと JICA 筑波で試着、体感してきました。

ブータンの民族衣装は、男性用は「ゴ」、女性用は「キラ」と呼ばれ、国から日常着として公の場での着用を義務付けられています。着用義務に反した場合には罰則規定も設けられるほど、国として民族衣装を重んじています。男性の「ゴ」「Gho」は、布を縦に使い、身丈はくるぶしまで、身幅は広く、脇と前身ごろに三角布がつき、裾幅は約 3m、重量は約 1.5 kg です。

試着した感想は、ずっしり重い、しかし袖、足元は広く、動きやすい。前の写真など、まるで日本人のようです。よく似ています。

女性用の「キラ」とは

キラは大きく 3 つに分かれています。

① スカート部分にあたる大きな一枚布でできた「キラ」、②キラの上に着用する「テェゴ」、そして③肌着の「ウォンジュ」。そして、キラを彩る装飾品が、「ケラ」と呼ばれる腰帯と、キラを留めるブローチ「コマ」です。

キラのルール

日本でも着物を着用する際には着物と帯の色選びにこだわるように、**キラでも色選びには絶対的なルールがあります。**【テェゴ(上着)・ウォンジュ(肌着)の色は、キラ(スカート部分)の布に含まれている色であること！】これがなかなか難しい。



2005年当時



## 3. 今のブータンでどんな国？

### ・揺れる幸せの国

ここ 20 年で先進国がたどった長い発展の道程を一挙に味わってしまいました。現在、日産リーフが首都を走り、工場も建ち、大人達たちはクラブ、バーで、若者達は、インターネットカフェで過ごし、田舎に帰ることを拒み、**着衣も T シャツジーパン、全く様変わりしています。**

経済発展を追い求める文化とは一線を画してきた幸福の国。経済成長とその価値観の維持を両立できるかが、この国の将来を占う試金石になると思います。それらの対策も見えていないのが現状です。

- ・今あなたは幸せですか？の問いに、一人の女性は、今の私に選択肢がない！受け入れて生活している。貧困率は12%程度です。

2019年現在



#### 4. 調査を通して一言

ブータン人と日本人はよく似ています。顔形、米が主食、鎖国、ルーツ、言葉など。ロシアのバイカル湖付近で6千年前に分かれた種族が今の現代に交流がない状態で、似ているとは、自然の不思議を感じました。



### フィリピン共和国

15世紀末、大航海時代、ポルトガルとの覇権を争ったスペインは、二国間の協定に基づき東回りは、ポルトガルにより南アフリカからインド、マラッカ海峡を経てマカオを支配、他方16世紀、スペインは、西廻り航路で、コロンブスが西インド諸島を発見した後、さらにマゼランが南米の先端を経由し、遠く太平洋の西側にフィリピンの島を発見しました。スペインの国王フェリペ2世の名を冠してこの地をフィリピンと命名し植民地としました。

国土は30万km<sup>2</sup>で日本の80%、約7千の島々からなります。首都は北に位置するルソン島のマニラで、国全体の人口は1億1千万人、マニラ首都圏はその15%の1,300万人を数えます。民族分布はマレー系が主体であるが、アジアからの移住者と旧来の民族との混血も含め、その数は60以上に及ぶといわれます。宗教はキリスト教が97%、その83%がカトリック教徒、15世紀全土にいたイスラム教徒は現在南部ミンダナオ島に少数にとどまります。言語はフィリピーノ語（タガログ語）の他英語を公用語とします。

東京（成田）・マニラ間は3千キロの距離を隔て、この道のりを航空機は一日10数便を数え、5時間内外で就航しています。また、観光地として日本人はその多くがセブ島を訪れています。気候は熱帯モンスーン気候で、台風の発生は、概ねフィリピン沖で発生し、毎年日本に数個上陸し、近年においてはその規模も大きく、またその被害も大きいです。発生、数日後の地理上の位置にある当国では季節によっては、民家への被害、人的被害も計り知れないほど猛烈な影響を、毎年甚大な損害を被ります。

主な産業は農林水産物で、日本では、とみにフィリピンバナナが有名です。また、最近では日本のコールセンターのビジネスプロセスも活発で、アウトソーシングの役割をを果たしています。元来、人的資源は豊富で、男性は10年前では中近東の新興国のAEUや、カタールでの建設現場の労働者での出稼ぎが、近年では女性はその国の言語の学習を得て、看護師の免許を、又は介護師の資格を取得して、あるいは家事労働で英語圏の香港やシンガポールその他の国々で仕事を確保し、貿易収支の一助となし、大いに本国の利益に貢献しています。

民族の衣装は前に述べた通り、60にも上る民族ごとに異なる衣装があったが、16

世紀のスペイン統治下、19世紀末の米西戦争後のアメリカ植民地支配時代、日本統治下の4年間をその後のフィリピン独立時代を経て、今では彼らの衣装は簡易化されて伝統的なものは廃れつつあります。



戦後19世紀末のバロンシャツはマルコス政権化において男性の正装ナショナル・コスチュームに制定されました。生地はバナナ繊維またはシナマイで作られた軽く、透けた織りの中に繊

細な刺繍が施されています。別名バロン・タガログとも称され、結婚式などにも着用されていて、高価なものです。

### 日本との関係

16世紀末、秀吉の朱印船貿易でマニラに日本人町が形成され最盛期は3,000人の日本人で一時賑わいを見せていました。1614年のバテレン追放令を受けてマニラに到着した大名の高山右近などがいたが、やがて20年後の鎖国令により、日本人町も衰退・消滅するにいたりました。1941年真珠湾攻撃後、日本陸軍は南方作戦でフィリピンにも上陸し、一時期日本統治下となるもアメリカ軍の再奪回により、1945年9月、日本軍の敗戦により戦闘は終結するが、フィリピン人の死者は100万人を超えました。戦後、1956年日比賠償協定に基づき、その後20年間で日本はフィリピンに1,902億円の賠償金を支払っているが、戦後補償の意味合いも込めた援助供与が行われ、金額的にはインドネシア、中国、インド、に次いでフィリピンには4番目のODA開発援助を行っています。マルコス大統領の長期独裁政権の後を受け、就任したコラソン・アキノ大統領は1986年11月訪日し、昭和天皇から不幸な戦争の謝罪を受け入れ、その際には新たな援助を両国間で合意し現在ロドリゴ・ドゥテルテ大統領が就任後3年目であるが日本との友好関係は良好な状態が保たれています。



### ウズベキスタン

首都はタシュケントで人口約3,000万人、日本の4分の1位です。

民族の内訳はウズベク人80%、ロシア人5.5%、タジク人5%です。宗教はイスラム教96%、ユダヤ教3%です。言語はウズベク語75%、ロシア語15%、その他です。



国の面積は447,400 km<sup>2</sup>で世界55位です。民族衣装はパラジャというのが有名です。主に女性用です。私が着ているのは富裕層の衣装で、主に男性用です。一般の男性は地味な背広を着て、ドッピを被っている事が多いです。ドッピとはムスリムの帽子で

お祈りの時に額を床につけるので、つばの無い形をしています。また冬の装いはチョポンと呼ばれるガウンのような上着を着ます。鮮やかな色のベルポックという帯で腰のところを結び、フェルガナ地方の男性はナイフを刺す伝統があります。女性はゆったりしたモンペの様なズボンをはき、その上から華やかなワンピースを着ます。帽子やワンピースにも刺繍の入った物が好まれています。ムスリムの女性はルモールを被って髪を隠すのが、一般的な身だしなみとされています。オリンピックでは、2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドンでレスリングの120キロ級で金メダルの記録が残っています。通貨はムスで、日本の円借款で、鉄道及び都市の近代化事業を進め

ています。

## Ⅶ. 東松山市在住の外国人との懇談会-1

1. 場所：時間 2019年8月3日(土) 研修室2 13:00~15:00(2時間)

2. 交流外国人：ベトナム人親子(3人)と

    バングラディッシュ人男性1人

    皆さん日本語が堪能です。

3. 目的：民族衣装、現時の生活、困っていること、良かったこと等をお聞きし、東松山市での生活状況等もお聞きしたい。



4. 交流内容

1) 在住者調査：2018年時、市内在住ベトナム人は72人、バングラディッシュ人は1人

2) 皆さんに民族衣装を着ていただきました。どんな時に着ますか？

- ・ベトナムでは、行事が在る時に着ます。
- ・バングラディッシュ人は、仕事以外、毎日着ます。

3) 現時の生活状況

- ・ベトナム人家族は、市内の餃子工場で勤務していました。ところが突然、今年7月に会社が倒産して現在失業、休職中です。ベトナム人女性は、就労ビザが事務職という職業であり、他の職業につくことができません。中々決まらない状況です。離職票がないので失業保険ももらえないし、生活は苦しい状態です。

調査1：現在東松山で働いている外国人在留資格について調査しました。

工業団地で働いている人、おおよそ4パターンがあります。(A社の現状)

① 高度専門職(プロ)とされています。(エンジニア、通訳など)

    今回のベトナム人は、このクラスに入ります。

② 在留許可を得ている人(日本人の配偶者、子供・・・など)

③ 留学生：バングラディッシュ人はこのクラスに入ります。

    この皆さんは勉強しながら就業ができます。最大28時間/週が限度です。

    しかし、職場を変えて就労し、それ以上の皆さんもいます。把握しきれない状況です。企業ではこれが現状です。給料は、最低賃金が保証されています。

    926円(最低賃金)×23日×8時間=170,384円を下回ることは出来ません。

④ 技能実習生：日本の公私の機関により受け入れられて行う技能等を修得する活動で、企業からは、「もう安価に雇えない」という生の声が聞こえます。

4) 外国人の仕事への意見

- ・3K 職場に働きに来たわけではない。安い労働者として見て欲しくない。企業側は、安い労働力が必要。ギャップがあります。
- ・日本は、人口減、働き手不足・・・外国人が欲しい。
- ・失業・転職時、簡単に職を変えられない。(ベトナム人：高度専門職)

調査 2：この件は、日本に就労ビザで働きに来ている場合、1人1種類の仕事内容でビザが認可。よって、失業時他の職種に就けないという問題。次のビザを入手するまで同じ職種の仕事を見つけないといけない。生活ができない。でも日本では認められない。EUではそれがある程度自由と言う。生活ができないなら日本に居られない。今回の女性は3ヶ月経過し新規のビザを入手できた。  
\*外国人に来てくださいというが、まだまだ外国人には、手続き・条件などが厳しいようです。  
\*現在では、日本より台湾を目指す人が増えています。転職の容易、給与面が良好です。(市内経営者談)

#### 5) 日本での生活

・日本に来て子供がすぐに学校に入れませんでした。ボランティアの人に助けられました。でも今は入学できて感謝しています。  
→なぜ援助が公の支援で出来ないのか？ ボランティアが活躍している。  
・全員日本が好き。みんな親切。やはり収入が多い。町がきれい。住みやすい。永住したい。ベトナム人は、国に扶養家族がいるとベトナム政府が定住許可を出しません。又日本では、本人の資産300万円以上保有も一つの条件です。非常に難しい状況です。

#### 6) 地域との交流

・ベトナム人：日本語ボランティア交流センターで交流。又身近な日本の皆さん。  
・バングラディッシュ人：付き合いはない。

→東松山市国際交流協会を紹介。

最後に：外国人に来て下さいという日本だが、生活ができないと住めないし、失業、子供、在留資格、永住権、就労ビザ等、更に支援が必要と思われます。また、今回の皆さんは、多くの交流機会を持っていませんでした。不安がいっぱいあります。多くの支援が必要であります。

### 東松山市在住の外国人との懇談会-2

日時：8月24日(土) 13時～15時

場所：きらめき市民大学 研修室 2

1. 交流外国人：女性2名(フィリピン出身)
2. 目的：民族衣装、現時の生活、困っていること、良かったこと等をお聞きし、東松山市での現時の生活状況等。

#### 3. 交流内容：

今回、市内の金子さんの紹介で、フィリピン出身の女性二人と話し合う機会がありました。一人はベルナさん、もう一人はイエサさんで、それぞれ来日から33年、16年を経過し、日本人と結婚し日本国籍も取得しています。イエサさんは35才で来日、比較的高齢で来日したにもかかわらず、流暢な日本語をしゃべることができ、2人とも日本語の理解力は優れています。2人とも、市内の公共住宅に住み、ヤマザキパンで仕事をしており友人同士です。ベル



ナさんは20才で来日、翌年日本人と結婚し10年後に離婚、子どもは夫が引取りました。その後フィリピン人と再婚・離婚を経て現在2人の娘と3人暮らしです。イエサさんも来日後、日本人と結婚しその後離婚、現在15歳の娘と二人で暮らしています。月額12万円の給料、社会保険も入っているものの、生活は大変と言っています。アルバイトを時々して補っているとのこと。日本人は優しいし、住みやすい社会で、これからもずっと住んでいきたいと言っています。

フィリピン人会といったものはないが、市内の教会に毎日曜日ミサに出掛けて、心の安らぎを得ているという。またその時、仲間同士で困っていること等を話しているとのこと。ベルナさんはダンスが得意で、ダンスフェスティバルに向けて指導したり、自らも踊っています。今回もその衣装を着て即興で私たちの目の前で、2分程踊って見せてくれました。フィリピンはカトリックの教徒が多く、教会での結婚式の衣装は男性は白のスーツ、女性は白いウエディングドレスを着ます。日本人みたいに式の途中でのお色直しはありません。普段の交通手段は自転車で暮らしています。子供は、高校には出しておきたいが、大学進学は、そこまでのゆとりはありません。将来子供が社会人になって落ち着いたら、フィリピンに帰って見たいとベルナさんは言っていました。フィリピン人はスペイン進出以降、特に混血の人が多く、中国系、マレー系、スペイン系など曾祖父母から、単一の家系は珍しいと言われています。ベルナさん、イエサさんもそれぞれスペインの血が入っていると言っています。

## VIII. 外国人労働者の雇用について

日時：10月9日（水） 13時～15時

場所：きらめき市民大学 研修室 2

講師：東松山市の部品加工会社（株）相談役

外国人を雇用する企業の方にご指導いただきました。当該企業は十数年前より労働力不足の現状を打破するために、外国人労働者の雇用をはじめました。

雇用のために、まず情報収集からはじめました。発展途上国を巡回して研究し「ベトナム」からの受け入れを決定いたしました。受け入れにあたり「法律的」「民族的」「宗教的」な問題を解決することができました。初めのころは、雇用の問題なくスムーズにいきましたが、現在では「賃金」「仕事内容」「宿舎」の問題もあり雇用が難しくなっている事が判明致しました。昨年には、「宿舎」を建設して受け入れを整えましたが、「他の国への流出」と「賃金の上昇」、受け入れ機関の「手数料」の高騰が重なり「雇用確保」がむずかしくなっております。今後の方策として「高齢者の雇用」「定年後の再雇用」「定年延長」そして「作業の自動化」「AI化」「簡素化」の向上を図ることが、研究課題であると述べられておりました。

## IX. 活動を振り返って

○森田

民族衣装を通じて、その国の実情を知るというテーマが決まり、まず始めに「JICA 筑波」にメンバー全員で各自の民族衣装を選びに行きました。私は一目で気に入り、ボリビアの衣装を選びました。南米大陸のど真ん中の国、日本から見て地球の裏側にあたる国ボリビアは、南米最貧国として知られ、バックパッカーの為の国、そんな風に思われがちですが、貧しいながら明るく生きるその国民性から、日本人が忘れた大切な何かを見つけることができます。どの国の民族衣装もその国の文化、民族と共に生きていること、そして日本との関係、その国の実情など、今まで知らなかったことを課題研究を通して知ることができました。

○森本

色々な国の民族衣装を身に着けて、その国の人口、面積、宗教、風土、気候、貿易等を勉強させていただき、グループも和気あいあいと、とても楽しく、良い経験をさせていただきました。本当に、私自身、何も出来なくて申し訳なく思っていました。でも、何とか、「まとめ」まで、こぎつけていただき、感謝して居ります。これからもよろしくお願いいたします。

○矢島

発展途上国の「民族衣装」と、その国の実情を研究する機会に恵まれました。実際に、「JICA 筑波」さんにお伺い、民族衣装を着用させていただきました。該当国の歴史、気候、風土に思いをいたし、国の実情を研究することにより、今まで、それほど関心がなかった日本との関係や、実際のお国柄が判ったことは、私にとって大きな収穫になりました。この研究を通じて『国際平和』を願いたいと思っております。チームの皆さんと一緒に厳しく、楽しく「研究」することができました。ありがとうございました。

○高橋

衣料品のグローバル化のスピードは実に早い。各国の好みに合わせて、消費者のニーズを取り入れ、各メーカーはしのぎを削る。それぞれの民族（伝統）衣装は、時代の波に押し寄せられる位置づけとなっています。我が国では、夏の涼をもとめ、若い女性の間で浴衣着の見直しをされているものの、和服を着る機会、和服と親しむ文化の裾野は広がっていません。簡素化、カジュアルさは世界の潮流となっていて、民族（伝統）衣装の継承は生地・染・職人の後継者問題など、様々な要因も抱え、将来的にも維持継続するのが難しい事が、今回の課題研究でわかりました。

○小出

活動を振り返っていろいろ感じました。民族衣装を初めて見て、触れて、着て、その国の文化や生活環境が少し分かったような気がしました。国の貧しさや苦難の歴史をたどっても 民族の伝統文化が守られ、今でも民族衣装を身に付けて生活したり、踊ったり、心の豊かさを感じました。最後にこのテーマを考えてくれて、実行した仲間感謝します。

○水村

今回の研究テーマで感じたことは、民族衣装はその国の歴史、文化を物語っていることを感じました。課題研究の国は、限られたものとなったが、調べる程に、深い歴史、文化を得ることが出来ました。又、他の国についても、同様に興味を持つようになり、より一層身近になった、感があります。

○佐藤

「民族衣装を通じて、その国の実情を知る」このテーマを選んだのは、着る物、民族衣装によって、その国の文化、気候、経済等が伺い知ることが出来ると思ったからです。まず、グループ全員で、茨城県筑波にある「JICA」を訪ねてみることにしました。「JICA」は開発途上国への国際協力、技術力等、後押ししている所だと知りました。東南アジア、中南米、アフリカの国々の民族衣装が置いてあり、その衣装を選ぶことによって、その国のことを研究課題にしなければならない為、皆、どれにしようかと着替えてみたり、鏡に映してみたりと真剣に選んでいました。行き帰りの車中では、コミュニケーションが出来、楽しく仲間意識が高まった事は、大きな成果でもありました。そして、それぞれの国が決まり、私はアルジェリアを調べることになりました。なじみの無い国だけに、どんな国なのか興味津々

でした。

#### ○屋代

民族衣装を着て生活をする。その国は減っています。あのブータン、公務は全て民族衣装着用義務化、その国が現代のテクノロジー、経済システムなどを取入れた時、その変化が人の考え方を換え、生活を変え、衣装を変え、食を変え、今はTシャツ、Gパン姿もあります。世界中皆同じものを着て、同じような経済社会で生活する時代になっています。今まで近くに居なかった外国人と一緒に働いている、東松山でも、私たちの傍に多くの外国人が住んでいますし、増えています。日本は人口減、働き手不足から制限していた外国人の流入を一部開放しました。東松山に来た外国人の生活の現状を聞く機会を得ました。日本は好き、優しい、日本に居たい。口々にその言葉を聞きます。しかし、生活ができないと住めない。まだまだ安い労働力として見る経営者、失業、子供の心配、在留資格、永住権、就労ビザ・等厳しい法的制限の中、不安がいっぱいです。それをつぶさに感じる事ができました。公がすべきことをボランティア団体が支援をしている、そんな日本も見ました。これからますます増えるであろう外国人に対し、多くの支援が必要、又私たちが受け入れを変えていく必要性を強く感じる課題でした。

### X. まとめ（成果・感想・課題など）

- 課題の「テーマ」に基づき、8か国を、図書館の文献、インターネット情報等を参考に、その国の民族衣装、実情（風土、気候、歴史、産業、貿易等）等を調査しました。その中で民族衣装に関しては、国によっては多くの衣装が有り、それをまじかに接する事ができました（JICA 筑波での民族衣装の試着）。今後、さらに調査を重ね、広く見聞を広めたいと思います。
- 今回の研究で、「民族衣装、その国の実情」を調査したことにより、今まで、それほど関心が無かった日本との関係や実際の、お国柄が判ったことは、我々にとっては大きな収穫になりました。
- 日本にとって、民族衣装の和服を着る機会、和服を親しむ文化の裾野は、残念ながら広がっていません。衣類の原材料、職人の後継者問題など、様々な要因も抱え、将来的にも維持するのが難しい事が、今回の課題研究で解りました。
- 東松山市に在留就労している外国人との懇談会では、外国人の皆さんは、「日本は好き、優しい、日本に居たい」と口々にその言葉を聞きます。しかし、生活が出来ないと住めない。まだまだ安い労働力として見る経営者、就労ビザ等、厳しい法的制限の中、不安がいっぱいです。それをつぶさに感じる事が出来ました。行政がすべきことをボランティア団体が支援している、そんな状態です。これからは、ますます外国人が増えます。外国人に対する考え方を早急に見直す必要があります。またコストを考えると外国人を雇えなくなります。（外国人のプライドを尊重すべき時期、決して外国人は安くは雇えない時期が来ます。企業経営者は対策要です。）

◎ご協力、ご指導をいただいた方々と機関・・・ご協力ありがとうございました。

○東松山市役所 総務部総務課

○東松山在住外国人

○フォトジャーナリスト 長 洋弘氏

○某企業の相談役

○JICA 筑波

○ガーナ共和国 大使館